

第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第8回）会議要録

- 1 日 時 令和7年2月12日（水）18時30分から20時45分まで
- 2 場 所 武蔵野商工会議所5階 第1、2会議室
- 3 出席委員 阿部、市川、和、熊田、見城、坂井、酒井、佐藤、鈴木、西田、馬場、
福本、町田、宮田、吉田（敬称略）
- 4 欠席委員 山田（敬称略）
- 5 事務局 福島常務理事、田村事務局長、ほか事務局職員
- 6 傍聴者 2名
- 7 議 事

（1）事務局より

事務局より、配付資料の確認及び傍聴者の出席を報告した後、主管課より武蔵野市地域支援課の福山課長および林課長補佐が出席することを伝えた。

（2）委員長挨拶

【委員長】 事務局より話があったとおり、今日で策定委員会は8回目ということで、この計画をまとめていく最終段階になっております。お気づきの点等ありましたら、意見をいただければと思います。

（3）議 事

①第7回策定委員会 会議要録確認 資料1

【委員長】 資料1 第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第7回）会議要録を確認し、意見や訂正等があれば修正いたしますが、いかがでしょうか。
なお、委員会終了後の校正依頼は、2月19日（水）までに事務局まで連絡ください。

※委員からの意見等はなかった。

②パブリックコメントに対する策定委員会の方針について 資料2

【委員長】 年末に実施したパブリックコメントに対する策定委員会の方針について、事務局より説明をお願いします。

※資料2に基づき事務局より説明した。

【委員】 パブリックコメントに対する返答で、検討しますや望まれますなど意見を出しているのに、市民社協に真摯に受け取ってもらえているのかな、どうなのか

なという印象を受けました。しっかり受け止めていますということが感じられるコメントを返したほうが良いかと思えます。

【委員長】 明確にこういうことをしますと書いてしまうと、逆に言うとなぜしないんだということになります。一人の意見がこの市全体の影響につながるということもあるかと思えますので、そこは一方で慎重に扱わなければいけないと思えます。

【事務局】 基本的な扱いとしては、意見として明確にお答えできないようなものにつきましては、委員会の中で論じられた方針に沿っての記載となります。

【委員】 **資料2** No. 20、21策定委員会の方針「ボランティアを受ける側がボランティアをする側に回り」に関して、解釈の仕方になりますが、ボランティアを受けた側が提供する側に回るところまでいかななくても、そのボランティアをする方と受け取り手の立ち位置のままお互いに関係性が構築されていくという意味合いを指摘されているのかなと思えました。なので、担い手と受け手の関係性、つながりという点をもう少し酌み取った方が良いのかなと思えます。

【委員長】 受け手、担い手の枠を無くす工夫をすることをあえて書き込んでほしいという意見とボランティアを受ける側が常に受け続けるのではなく、ボランティアを提供する側にも回るという点、ある種の主体性とは担保されているという感じのニュアンスを出したほうが良いという意見でしょうか。そのような意味合いを出すような形で、今の表現に加え、まさに受ける側の主体性というのを配慮したり、尊重したりするような形の関係性ができる実践をしていきますというような表現にしていきたいと思えます。

【委員】 **資料2** No. 19策定委員会の方針「ご意見して承ります」という回答をされるとちゃんと意見を聞いてもらっているのかという印象を持ちました。なので、具体的な回答をした方が良いと思えます。

【委員長】 例えば**資料2** No. 30策定委員会の方針「ご意見として承ります。」になっていますが、ここに、具体例を入れるとわかりやすいというところがあれば教えてほしいです。

【委員】 広報に関してはXの投稿など情報提供の仕組みについて、分かりやすく答えた方が納得すると思えます。

【委員】 意見として賜りますという言葉は、様々な場面で耳にすると、やはり無視するような印象があるのは事実だとは思えます。一方で、これをやりますよとか

検討しますよとかはっきり言えないものもある、でも意見として計画書にも載せる場合には、意見として賜りますというように書かざるを得ないのかなと思います。

もう一つは、この計画に書かれていることは、市民に対する要望が多すぎるという書かれ方をされていて、これを私たちが市民に要望するものではなくて、一緒にやっていきましょうというものだとは思いますが、意見をくださった方にはそれは伝わっていないのではと考えます。

【委員長】 確かに、「ご意見として賜ります。」という書き方というのは、いわゆるパブリックコメントの中では結構、比較的使われやすい言葉だと思うのですが、肯定でも否定でもないような言い方というのは違うという意見は大事にしたいと思いますので、このような表現は全部見直しという形にします。改めて、これをお読みいただく中で気になったこととか気づいたことというのは、事務局にお寄せいただく形を取りながら、最終的には、3月の委員会で検討するという形ではどうですか。

【事務局】 第7回議事要録の校正の締切と同様、2月19日（水）までに事務局まで連絡ください。

【委員】 策定委員会の方針の欄で、幾つか番号、ページ数が未記入になっているが現段階でわかりますか。

【事務局】 次回の策定委員会で提示する予定です。

③パブリックコメントおよび特に推し進めたいアクションを踏まえた第5次武蔵野市民地域福祉活動計画の素案について 資料3、4

【委員長】 パブリックコメントおよび特に推し進めたいアクションを踏まえた第5次武蔵野市民地域福祉活動計画（以下、第5次活動計画）の素案について、事務局より説明をお願いします。

※資料3、4、（別紙）I 地域福祉活動計画策定までの流れ、第5次活動計画（案）に対する意見に基づき事務局より説明した。

【委員長】 第5次活動計画（案）に対する意見No.10「進捗管理と評価」または「計画の推進・振り返り」を使うかというところですけど、ご意見いかがですか。

【副委員長】 私は、第4次活動計画の振り返り報告書の評価が分かりにくかったです。なので、「進捗管理と評価」も同様に分かりにくいと思います。この計画は、市

民が自分たちで考えて実行できる内容に落とし込んでいるところです。この計画は、理想と現実とは違った質的な部分での評価が多くなると思います。「進捗管理と評価」となると、数字で表現する部分が多くなることでわかりづらくなると思います。

【委員】 当初の段階で前回の評価が結果主義あるいは成果主義になっているので、今回この計画書を作成するにあたっては、プロセスを評価していくという意見があったと思います。なので、「進捗管理と評価」ではなくて「計画の推進・振り返り」ということのほうが適正ではないかと思います。

【委員長】 それでは、「進捗管理と評価」のほうが良いという意見がなければ、前回の計画の表現を踏襲しているということと、あくまでも計画の推進と振り返りを行うんだということというのがそのまま文言で表現されている「計画の推進・振り返り」のほうが良いのではないかという意見がありましたので、異議がなければ「計画の推進・振り返り」ということで表現する形にしようと思います。

【副委員長】 第5次活動計画(案)に対する意見No. 9「地域の情報」を「地域活動の情報」に修正した方がいいのではないかという意見がありますが、すごく重要なことだと思うので、議論が必要だと思います。「地域活動の情報」に修正するとなると今後の内容に大きく関わってくるので、確認しないといけないと思います。

【委員長】 資料311 ページに体系図がありますが、一つ目の基本目標である「地域の情報、福祉の情報が広がり、必要な人に届く武蔵野市にしよう！」という表記になっているところを地域活動の情報に修正した方がいいのではないかということだと思います。それで、前回の策定委員会で分かりづらいと指摘があったのでということですが、そういう指摘が過去にあったかどうかを確認した方がまずは良いかと思います。

【事務局】 第5次活動計画(案)に対する意見No. 9に関しては、地域の情報という単語だと地域社協の情報なのか地域全体のことなのか、この地域という単語からだと理解できないのではないかと意見がありました。

【副委員長】 なぜ地域活動ではなく地域の情報にしたかということ、今後の私たちが今回の計画で一番重要視している情報の伝達の手段は、ここにかかってくるわけです。情報がなかなか自分たちに届かない、届きにくい状況になっているのを何とか

しようと考えているので、情報がきちんと届くことによって取捨選択できる、例えば活動していきたいのか、それとも困っていて必要な情報を自分自身が入手できるのかということです。ここで活動に限定してしまうと、困っている人や助けてほしいと思っている人が、ボランティアセンターや地域社協が発信している相談や支援に関する情報を入手するところが薄くなってしまおうと考えています。

【委員】 地域の情報のほうが良いと思います。地域活動では、どうしても団体の情報という印象があつて、やはり地域でないと相談などいろいろな分野にわたると思います。

【委員】 私も地域活動という印象や流れを変えてしまうので、地域の情報で良いと思います。

【委員長】 複数の委員から意見がありましたが、確かに活動という形に限定してしまうよりは、地域の様々な情報というのをどういう形で扱い、提供あるいは集めていくかというところで、議論をしてきたのかなと思います。そういう意味では地域の情報にした方が分かりやすいと思います。では、地域の情報で基本的には現行通りとします。

【委員】 私も地域の情報、福祉の情報で良いと思いますが、地域の活動と意見が出たのは、その後の取組み（１）地域の活動に参加しやすい情報発信だからではないかと思いました。例えば、地域で活動しやすい情報発信を行うなどにすれば基本目標と合うのではないかと考えます。

【委員長】 良い意見だと思います。地域の情報を活かすのであれば、地域で活動しやすい情報と表記したほうが良いという意見がありましたが、他の委員はいかがでしょうか。

【副委員長】 私は、地域で活動しやすいと表記すると少し重いと感じます。子育て世代や共働き世帯などに地域活動に参加してもらいたいけれど、活動することを前提にした議論や検討ではなく、もう少し丁寧にしたほうが参加する人たちを広げることができるかと思っています。

【委員長】 ここに残っている単語を全部残した形で、つなぎ直したという印象です。こちらのほうが確かに大きく変えていないというか、今の原文は地域の活動に参加しやすいとなっていて、これだともう明らかに地域の活動に参加しやすいと

というようなことが前提になってしまうのが、これを地域で活動に参加しやすいという、表現に変えるだけで少し前提条件というような印象が広がるように思いました。意見がなければ、地域で活動に参加しやすい情報発信を行う形の表記に変更したいと思います

【委員】 **資料3**の課題の表記について、何々ができていないと断言するというのは、やっているところもあるので、読み取る側によっては印象が悪くなるのではないかと思います。

【委員】 問題と課題の意味が、ここで捉え違えていると思います。課題というのは取り組むべきことです。この課題には問題が書いてあるので、恐らく今の意見はこの違和感のことを言われているのではと思います。ここに書いてあるのは、すべて問題なので、これを課題にするのであれば、取り組むべきことを書いたうえで、書き直すということが必要になってきます。この内容通りにするのであれば、問題と小見出しを修正することが必要だと思います。

【事務局】 課題の捉え方ですが、問題が課題かはひとまず置かせていただきまして、ここでの書き方は、一つは地域懇談会の中で実際に活動している人たちの中から出てきた意見というところがあります。さらに、これまでのグループワークを含めた策定委員会の議論の中で併せて出てきたものが、現状では課題という形の表現で整理しています。なので、実際書いていることが全ての地域に該当する又は共通するものではないという点を前提としています。

【委員長】 前提としては、ここに書かれている内容が、それぞれの地域懇談会で、実際に参加された方から出されたものであるということがまず事実ということです。加えて、指摘がありました課題といった場合というのは、問題ではないという意見で、もしもこれが課題という表現であれば、すべてに関係してくる内容になってきます。まずは、課題と問題はどういう定義になっているかを、まず確認したほうが良いと思います。

【委員】 ここに課題と書かれていても問題と書かれていても、私はどちらでも良いと考えています。重要なことは、これを読む人が、失礼だなとか、こんなこと考えているのかなと思って、市民社協はもう私に関係ないという気持ちにならないように書くことだと思います。

【副委員長】 問題と課題の意味が捉え違えているという意見が理解できました。間違えてはいけないことは、地域懇談会でこの意見が出ているという事実です。なので、

その事実を曲げないような表現にしなくてはならないと思います。やはり、地域懇談会で真剣かつ活発に意見を出してくださった方たちの発言内容は、真意を理解した表現にして記載すべきということが先ずあります。加えて、パブリックコメントでも言ったように、これを実行するのは私たち市民で、策定委員も市民で、共に一緒にやろうとしている皆さんが納得できる表現というのが、すごく重要になってくると思います。

【委員】 課題に書かれている内容はあくまでも個人の意見です。個人の意見は尊重されるべきなので、解釈を変えて言い直すことは違うと思います。それは課題とか問題ということではなくて、寄せられた意見というように記載した方が分かると思います。

【委員】 私が気になっていたのは、現状と課題を通して読んでいくと、現状のところは淡々と事実を書いている一方で、課題のところでは主観的な意見や地域、個別で事情が異なるような書き方になっています。案としては課題という囲みの中に、「地域懇談会参加者などから出された意見」など、あくまで意見であることを明示したほうが良いと思います。

【委員】 課題の内容に地域懇談会と策定委員会で話されていることが一緒になっているという構成は、読み手によっては混乱してしまうので、見直した方が良いと思います。また、課題の部分とその説明のところはページが離れていて、見にくいと思います。

【委員長】 いくつか意見がありましたが、まず課題は、あくまで地域懇談会の中で出された意見を集約したものであるということがまず前提になっていることです。ただ、一体これはどこから出ているものかが、分かりにくいし、課題の部分とその説明のところは離れていて、見にくいということもあるだろうということで、もしこの課題の内容を変えないで、記載するのであれば、一体何を根拠にしているのかを明確にすることが大事だと思います。課題は、地域懇談会で出された意見だという表現を明確につけて、基本的に残すという形にしたいと思います。一方では、失礼だという意見というものもあるかと思うので、これは言い過ぎなのではないかということがあれば、手直しをすることでよろしいでしょうか。

【委員長】 資料321ページのところの部分でいくつか指摘があるかと思うのですが、例えば一番上のところの対象や世代に合わせて「、」をつけて、世代対象間わ

ず地域とつながる仕組みをつくり、地域の情報を伝えるというような言葉の修正は可能ですか。

【事務局】 可能です。

【委員】 **資料3**21ページ「第5次活動計画で特に推し進めたいアクションその2」で、老若男女が楽しく集えるサロンやフリーマーケットや到達目標では、すごく具体的な美容院や床屋、フィットネスジムとかと書いてありますが、具体的過ぎる印象を受けました。これを推し進めたいアクションにするということは、違和感があります。

【委員長】 人が集まりやすく地域の拠点になりそうな場所というのは何かという質問が出るだろうということで、例示として、フィットネスジムや美容院を挙げていると思います。例示を削除する方法もありますが、それだと、一体何を言っているのか理解ができない可能性もあります。ここをどういう形で例示を残しますか。

【副委員長】 例示のような場所の問題に関して苦勞されている人は多いと思います。まずその適当な場所を見つけることやその場所で活動していくための人集めも含めて懸念されていると思います。

【委員長】 それでは、今の意見をふまえ例示の示し方を検討し、次回の委員会にて提示したいと思います。

【委員】 「第5次活動計画で特に推し進めたいアクション」の表記を繰り返し使用する場合は、※印にするなどメリハリをつけた方が良いと思います。

【委員長】 そのこのタイトルの表記を端的にし、分かりやすくしたいと思います。

【委員】 今回の計画全体で障がいのある方の部分というのは、なかなか文言、言葉として見えにくいところがあると感じてします。こういう活動に参加する、参加している人が実行するところに、障がいのある方も含まれていることが大前提ということが中々浸透していないと思います。障害者差別解消法など用語集に追記するなどが必要だと思います。

【委員長】 地域住民というのは、いわゆる一般的な地域住民ではなくて、まさに様々な人を含めた地域住民だということころは、まず始めにどこかで明記したほうが良いのかなと思いましたので、そういう意味では我々が想定している地域住民像はどういう住民なのかをしっかりと書くことが良いかと思います。22ページ(5)地域で一緒に活動できる仲間を増やすに関しては意見ありますか。

【委員】 地域活動をするうえでの負担をなくしていきたいというところです。活動自体を減らすことや事務負担を減らすところが意見としてはあったかと思っています。

【委員長】 負担の軽減も含めて活動の評価と団体の評価を見直していくような意味もあったほうが良いかと思います。それでは、2月19日までに第7回議事要録の校正とあわせて、パブリックコメントや活動計画の本章及び資料集の表現・内容で気になったところがあれば事務局まで意見を提出してください。後日取りまとめて、次回の3月の委員会にてお示しする流れになると思います。

【委員】 第5次活動計画では、PR動画を作成する予定はありますか。今回は、専門の業者を入れて作成した方が良いかと思います。

【事務局】 動画作成に関しましては、次回の委員会にて報告します。

(4) 次回日程

・令和7年3月5日（水）18時30分より武蔵野商工会議所5階第1、2会議室

【委員長】 他になければ、これで第8回の策定委員会を終わります。